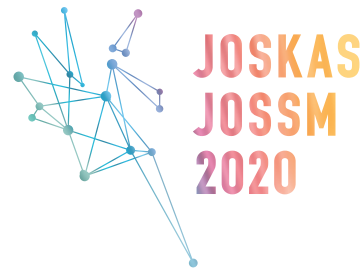


JOSKAS-JOSSM 2020 ランチョンセミナー 13・LS13



運動器エコーが変える スポーツチーム医療

座長：福林 徹 先生（東京有明医療大学 保健医療学部 柔道整復学科 特任教授）

演者：熊井 司 先生（早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授）

日時：2020年12月18日（金）11:55～12:55

会場：第2会場 展示場展示室B

【参加方法】ランチョンセミナーへのご参加、および単位の取得は**事前予約制**です。
学会ホームページの事前参加登録よりご登録ください。

事前参加登録期間：2020年11月4日（水）～11月30日（月） 正午

本セミナーは現地開催とオンライン中継を複合したハイブリッド開催です。
参加申し込み時に「現地会場に参加」/「オンラインで参加」をお選びください。



【認定単位】 日本整形外科学会教育研修単位：S/N2/N8 認定番号：029

共催：JOSKAS-JOSSM 2020 / 日本シグマックス株式会社

● 運動器エコーが変えるスポーツチーム医療

熊井 司

早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授

運動器エコーの発達と普及は目覚ましいものがある。エコー機器技術の進歩により医療現場の多様性に対応した様々な機種が開発されている。微細で低流速の血流を描出可能にしたドプラ法、軟部組織の弾性特性を計測できるshear wave elastographyなど高度な機能を装備したモデルから、現場に持ち出す携帯性を追求したモデル、簡便な操作を目的としたモデルなど、各医療現場でのニーズに応えることが可能となってきた。厚生労働省の推進する「チーム医療」では、医師、看護師、理学療法士など各職種における専門性の向上、役割の拡大、連携・補完の推進に加え、目的と情報の共有が広く求められている。運動器エコーは、医療チームを構成するスタッフ間で共有できる情報を提供するツールとして活用され、今やエコー画像が共通言語の一つとなりつつある。

このセミナーでは、チーム医療の必要性が高いスポーツ医療現場を例に運動器エコーの新たな有用性を考える。

● 略歴

1986年 奈良県立医科大学卒業、同整形外科入局
2000～2002年 英国ウエルズ大学
および ドイツ・ミュンヘン大学に留学
2002年 阪奈中央病院整形外科 部長
2006年 奈良県立医科大学整形外科 講師
福建医科大学(中国)客員教授 (現在)
2013年 奈良県立医科大学スポーツ医学講座 教授
2017年 早稲田大学スポーツ科学学術院 教授 (現在)
日本オリンピック委員会強化スタッフ (医・科学)
日本自転車競技連盟 選手強化医科学部会長
自転車トラック競技ナショナルチーム チームドクター
日本バレーボール協会 メディカル委員

会期中は **日本シグマックス展示ブース** へもお立ち寄りください！
神戸国際展示場 1号館 1F 小間番号：50



汎用超音波画像診断装置

ポケットエコー **miruco**
リニアプローブ

**298,000円(税抜)からのポケットエコーの
画質を見てみませんか？
高画質のポータブルエコーとの比較も可能！**

わずか400gのポータビリティと298,000円(税抜)からの低価格で
話題の「ポケットエコー miruco」を含む超音波画像診断装置を展示
いたします。学会場へお越しの際は、是非お立ち寄りください。

▶ その他注目の企画も開催予定！

- ★ 新作インタビュー動画を公開予定！
「スポーツ現場における
ポケットエコー mirucoの活用」
- ★ 各種装具・サポーターを展示！
- ★ ノベルティ付きアンケートの実施！



JOSKAS-JOSSM 2020 会期：2020年12月17日(木)～19日(土)